

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合  
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番  
2000.6.26 No. 5/56

## 「4党合意」は全面屈服の強要! 怒りを総結集し、この暴挙を打ち砕け!

### 「四党合意」破 棄こそ勝利の道

一〇四七名の解雇撤回闘争は、この間の「四党合意」―国労本部中執の受け入れ表明―七月臨大開催という重大な決戦局面を迎えている。

われわれは、この間の「日刊」で攻撃の本質を全面的に暴露し、警鐘を打ちならしてきたように、「JRに法的責任なし」を国労に強要する「四党合意」は、十三年間に及ぶこれまでの闘いを全て否定し、首切りを容認させ、国家的不当労働行為を全て認めさせ、国労に全面降伏を強要するという重大な攻撃である。

十三年間、汗と血を流し、多くの仲間の怒りと無念を我がものとして、全てをかけて闘ってきた。それは労働組合にとつて、首切りに反対し、闘うということが主義主張以前の生きるための絶対的課題であるということにとどまらず、現在、リストラ首切りと失業攻撃の中で多くの労働者が生きる権利すら奪われている状況の中で、それを突き破り、労働者の新たな団結を創りだし、反撃に転じていくその橋頭堡―拠点としての役割を国鉄闘争は担ってきた。この誇りと確信、階級的使命感が厳しい困難にも屈せず、スクラムを固め前進してきた根拠である。国労闘争団と家族も全く同じ思いであろう。

結論は鮮明である。「四党合意」の破棄こそ、一〇四七名解雇撤回闘争の勝利の道である。国労臨大での「JRに法的責任なし」を認めようとする一切の策謀を許さず、その阻止のため

に全力で闘うことである。

### JRに「法的責任」あり!

### 怒りをバネに解雇撤回闘争の新たな前進をかちとろう。

国労本部の「四党合意」の受け入れ表明に対し、闘争団・家族をはじめ、現場からは多くの抗議の声が殺到している。

とくに、六月八日、国鉄闘争支援の「中央闘争幹事会」では、支援・共闘の仲間から「四党合意を破棄せよ」という激しい怒りが噴出。中でも東京清掃労組は、「五・三〇四党合意と、国労本部声明に対する我が組合の考え方」を発表し、抗議の意志を明確にしている。また都労連傘下をはじめ、闘う労働組合では「こんな合意をのむのは労働組合の死だ」「こんな解決のためには、われわれは支援してきたのではない」と弾劾の声をあげているのである。

こうした中で、六月二十七日「JRに法的責任あり!緊急決起集会」が、大久保東京清掃労組委員長や佐藤昭夫氏(早稲田大学名誉教授・動労千葉顧問弁護士)など、労組・文化人によって呼びかけられている。その呼びかけの中で「JRへの全員復帰を勝ち取り、国鉄闘争を未来につなぐために国鉄闘争が切り開いてきた新しい労働運動を二

十一世紀に向かって飛躍させるために、一〇四七名と共に声をあげ、みんなのそして、自分自身の人権を守るために「JRの法的責任を強力に求めると訴えている。

敵の攻撃を逆手にとつて、国鉄闘争の新たな前進を切り開こうという、力強い決意に込めよう。

### われわれの闘いは、決して負けていない。

敵の攻撃は、断じて彼らの強さではない。ましてや、成算など全くないのである。

敵は十三年余りの国鉄闘争の前進に、追い詰められてきた。だから国労内のチャレンジャー派を使って、国労を内側から解体することに全力をあげてきたが、結局、貫徹することができな

った。

さらにJR総連・革マルを先兵にした動労千葉、国労解体攻撃も大破産状況である。

そこで登場してきたのが大塚体制である。敵は、革マルとの結託体制を清算し、他方ではチャレンジグループをたらしこんで、一〇四七名闘争を先頭とした国鉄闘争を潰すという、成算のない賭けに打って出てきたのである。勝利への確信は、敵の攻撃に降伏し、国労を売り渡そうとする裏切り者を絶対に許さず、闘いの原点に立ちきり、闘争団を守りぬき、全国の仲間たちの怒りを結集し、団結してたたかうことである。

国鉄分割・民営化攻撃で、職場を追われた、二〇万人の仲間たち、二〇〇〇人の自殺者、動労千葉や国労に所属していたというだけで採用を拒否された、七〇〇〇人の仲間の怒り、無念を胸に、新たな闘いに立ち上がる。

### 闘いの原点、誇りを

### 護つてはならない

**国鉄闘争勝利全国集会**  
六月三十日(金) 八時三〇分  
中野ZERO大ホール  
指定列車・千葉駅九番線 一六時五五分  
最後部下車